「中村哲さんに想うこと」

医師でペシャワール会代表の中村哲さんが亡くなりました。中村さんの逝去から一週間が経ち、心の奥に穴が空いてしまったように感じています。私が中村さんにお会いしたのは一度だけ、それもカブールからパキスタンに向かう PIA（パキスタン航空）の機内で前の席に座ったのです。マスードがカブール入城を果たした 1992 年頃だったと思いますがが、その頃、中村さんはカブールを追われたタリバンを擁護し、その対抗勢力であるマスード国防相を非道な指導者と非難していました。会ったこともないのに、どうしてわかるのかと思いながら、きっと周りの人間がそう吹き込んでいるだろうと真剣に反応しないようにしていました。でも、わだかまりがあって話しかけることを躊躇させたのです。しかし、今になって、どうして話しかけなかったのか、話しかけていたら笑顔を返してくれたかもしれないと思い返すと悔いが残ります。

その後も中村さんは人道支援の活動を続けました。あの小さな体でどこからエネルギーが湧きてくるのだろうと思えるほどのバイタリティと気力でした。私と考えは違っていても、彼がアフガニスタンと人々を愛していたのは間違いなく、多くのジャーナリストや NGO がやってきてはすぐに去っていく姿とは対照的でした。数年前にカブール在住の安井浩美さんから「中村先生に会ったら、マスードをきちんと評価してくれていたよ」と聞いて、何かうれしい気持ちになったことを思い出します。

今度は会ったら話しかけようと思っていた矢先、中村さんが凶弾に倒れました。中村さんが惹かれたのはアフガン人の優しさや人情でしたが、そのカケラも持ち合わせない輩に殺されてしまったのが無念でなりません。日本人から「アフガン人は恩を仇で返した」とか「憤りを感じる。許せない」という声が上がりましたが、彼の死を一番、悲しんでいるのはアフガン人だと思います。自分たちのことを忘れず、手を貸してくれた恩人として、哀悼の意を深く示し空港まで棺を出迎えに駆けつけた在日アフガン人もたくさんいました。多くの人たちの「哀悼と惜別の思いに抱かれて、中村さんは高いところに昇って行きました。今頃、天上で、2008 年に亡くなった伊藤さん、マスード、そして、道半ばで倒れた大勢の人たちとアフガニスタンのことを話しているかもしれません。

中村さん、あなたがアフガニスタンを深く愛したことを忘れません。どうぞ、安らかにお眠りください。そして、アフガニスタンが再建を果たし、平和が早く訪れるよう見守ってください。

長倉洋海